

題 目 ソーシャルサポートの欠如が親密関係に与える影響
— 社会の関係流動性による干渉効果の検討 —

氏 名 中館晴香

指導教官 結城雅樹

本研究の目的は、恋愛・友人関係の維持戦略としてのソーシャルサポート提供の有効性が、社会の関係流動性によって影響されるかを明らかにすることである。恋人や親しい友人との関係において必要に応じ相手をサポートすることは、どの社会においても関係を良好に維持していくことに役立つ適応行動の一つであると考えられるが、本研究では当該社会における対人関係形成機会の多寡を問わず関係流動性 (Yuki et al., 2007) の違いにより、その有効性が異なるのではないかと考えた。高関係流動性社会では新たな関係を形成する機会が多いため、一度親密な関係を築いても、相手が自分の元にとどまっている保証がない。こうした状況で相手を繋ぎとめておくためには、サポート提供のような関係維持行動を積極的に行なう必要がある。一方低関係流動性社会では、相手が自分の元から離れていく可能性が低いため、サポート提供の必要性は相対的に低いだろう。この仮説と一貫して、先行研究では関係流動性が高いほどサポート提供行動が多いことが示されている (鬼頭・山田・結城, 2014)。しかし、サポート行動が関係維持のために本当に有効であるかを確認するためには、関係相手である受容者の反応についても検討する必要がある。そこで本研究ではサポート受容者の反応に着目し、関係流動性の異なる社会環境の下に暮らす日本人・カナダ人大学生を対象に、場面想定法を用いたシナリオ実験を行なった。その結果、友人関係においては予測通り、相手からサポートを得られなかった場合に 1) カナダ人も日本人も相手のことを否定的に評価したが、2) 関係解消意思の高まりはカナダ人の方が日本人よりも強かった。しかし恋愛関係においては、日加ともに否定的評価及び関係解消意思が高まり、差は見られなかった。探索的に検討したサポート欠如状況における関係改善努力度は、恋愛・友人関係ともにカナダ人の方が日本人よりも高かった。また、関係解消意思や関係改善努力度の日加差に対する関係流動性の有意な媒介効果は得られなかった。以上の結果は、サポートを得られなかった場面を想定した場合に、関係の組み換え機会が多いカナダにおいては、その関係をすぐに解消するよりも、相手を繋ぎとめておくための行動をとりやすいことを示唆する知見である。ゆえに今後は、サポートを得られない状況が続くなど、関係がより悪化した場合では異なる結果が得られるか検討する必要があるだろう。